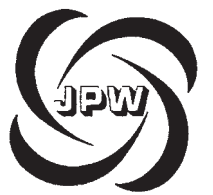


紙パ連合

発行所
日本紙パルプ紙加工
産業労働組合連合会
〒107-8333 東京都港区北青山
2丁目12番4号
TEL 03-3402-7656
FAX 03-3402-7659
URL http://www.jpw.or.jp/
発行人 宮崎孝文
購読料は組合費に含む
定価2頁10円、4頁20円



インダストリアル・グローバルユニオン 『紙パルプ産業世界会議』開催

世界各国から1100名が参加



紙パ連合から出席した5名の皆さん

(左から山上、山本、杉田、福本、橋本) ※敬称略

その後は、ハンガリー・化学・エネルギー・一般労働組合連盟会長、政府を代表し国家経済大臣よりそれぞれ歓迎の挨拶、インダストリアル事務局より、世界における紙パルプ産業の現状についての報告を受けた後、パネリストを中心とした議論が進められました。

また、安全に関しては、「世界の中で紙パルプ産業は最も危険な産業と言われている」「重篤災害以下の災害については、従業員が解雇を恐れて隠す傾向にあり、報告されているものは氷山の一角にすぎない」とあり、その理由として、他国では、経営者は「自社の設備に不安な箇所はない」と報告を行い、南米から出席者より「日本での新設備導入時のオペレーター教育方法」等についての質問がありました。各パネリストは「労働者においては「労働者の安全確保と不安な作業への拒否権の確立」「人権・自由・民主主義・公平な分配による公正な社会の実現」「南米・東南アジアを中心とした国家・企業による反労働組合政策への対応」「デジタル化の急激な進展による紙パルプ産業と労働者への影響と対策」等について意見があり、中でも国家・企業による反労働組合政策に関し、南米コロンビアからの出席者の「コロンビアではこの1年間で100名以上の労働者が殺害されており、各国労働者の連帯の力で救済していただきたい」との、本会議において救済決議の採択を求めた発言は、日本の労働関係とは大きく異なるものであり、強く印象に残りました。

また、安全に関しては、「世界の中で紙パルプ産業は最も危険な産業と言われている」「重篤災害以下の災害については、従業員が解雇を恐れて隠す傾向にあり、報告されているものは氷山の一角にすぎない」とあり、その理由として、他国では、経営者は「自社の設備に不安な箇所はない」と報告を行い、南米から出席者より「日本での新設備導入時のオペレーター教育方法」等についての質問がありました。各パネリストは「労働者においては「労働者の安全確保と不安な作業への拒否権の確立」「人権・自由・民主主義・公平な分配による公正な社会の実現」「南米・東南アジアを中心とした国家・企業による反労働組合政策への対応」「デジタル化の急激な進展による紙パルプ産業と労働者への影響と対策」等について意見があり、中でも国家・企業による反労働組合政策に関し、南米コロンビアからの出席者の「コロンビアではこの1年間で100名以上の労働者が殺害されており、各国労働者の連帯の力で救済していただきたい」との、本会議において救済決議の採択を求めた発言は、日本の労働関係とは大きく異なるものであり、強く印象に残りました。



「産業の構造改革とデジタル化」について報告を行う橋本中央副執行委員長

最後に、今回、大変貴重な経験をさせていただいたことに対して、心より感謝申し上げ、紙パルプ産業世界会議に参加した報告といたします。(記・橋本中央副執行委員長)

2012年の新組織結成後、2回目となるインダストリアル・グローバルユニオン「紙パルプ産業世界会議」が、2017年11月29日〜30日、ハンガリー・ブダペストにおいて開催され、世界23カ国・30組合より1100名が出席、日本からはインダストリアル・JAF・松井副事務局長、紙パ連合・橋本中央副執行委員長(日本製紙労働組合)、王ユニオン紙パルプ部門共

子製紙新労組・山本中央執行委員長、特種東海製紙労組・福本中央執行委員長、レンゴウ労組・杉田中央副執行委員長、三菱製紙労組・山上書記長の6名が出席し、紙パルプ産業を取巻く様々な課題や対応、労働組合の取り組み等について議論を行いました。会議では、リーアン・フォスター氏(インダストリアル・グローバルユニオン紙パルプ部門共)の挨拶があり、引き続き、ケマル・ウスカン氏(インダストリアル・グローバルユニオン書記長)より挨拶を受けました。

また、安全に関しては、「世界の中で紙パルプ産業は最も危険な産業と言われている」「重篤災害以下の災害については、従業員が解雇を恐れて隠す傾向にあり、報告されているものは氷山の一角にすぎない」とあり、その理由として、他国では、経営者は「自社の設備に不安な箇所はない」と報告を行い、南米から出席者より「日本での新設備導入時のオペレーター教育方法」等についての質問がありました。各パネリストは「労働者においては「労働者の安全確保と不安な作業への拒否権の確立」「人権・自由・民主主義・公平な分配による公正な社会の実現」「南米・東南アジアを中心とした国家・企業による反労働組合政策への対応」「デジタル化の急激な進展による紙パルプ産業と労働者への影響と対策」等について意見があり、中でも国家・企業による反労働組合政策に関し、南米コロンビアからの出席者の「コロンビアではこの1年間で100名以上の労働者が殺害されており、各国労働者の連帯の力で救済していただきたい」との、本会議において救済決議の採択を求めた発言は、日本の労働関係とは大きく異なるものであり、強く印象に残りました。

また、安全に関しては、「世界の中で紙パルプ産業は最も危険な産業と言われている」「重篤災害以下の災害については、従業員が解雇を恐れて隠す傾向にあり、報告されているものは氷山の一角にすぎない」とあり、その理由として、他国では、経営者は「自社の設備に不安な箇所はない」と報告を行い、南米から出席者より「日本での新設備導入時のオペレーター教育方法」等についての質問がありました。各パネリストは「労働者においては「労働者の安全確保と不安な作業への拒否権の確立」「人権・自由・民主主義・公平な分配による公正な社会の実現」「南米・東南アジアを中心とした国家・企業による反労働組合政策への対応」「デジタル化の急激な進展による紙パルプ産業と労働者への影響と対策」等について意見があり、中でも国家・企業による反労働組合政策に関し、南米コロンビアからの出席者の「コロンビアではこの1年間で100名以上の労働者が殺害されており、各国労働者の連帯の力で救済していただきたい」との、本会議において救済決議の採択を求めた発言は、日本の労働関係とは大きく異なるものであり、強く印象に残りました。

また、安全に関しては、「世界の中で紙パルプ産業は最も危険な産業と言われている」「重篤災害以下の災害については、従業員が解雇を恐れて隠す傾向にあり、報告されているものは氷山の一角にすぎない」とあり、その理由として、他国では、経営者は「自社の設備に不安な箇所はない」と報告を行い、南米から出席者より「日本での新設備導入時のオペレーター教育方法」等についての質問がありました。各パネリストは「労働者においては「労働者の安全確保と不安な作業への拒否権の確立」「人権・自由・民主主義・公平な分配による公正な社会の実現」「南米・東南アジアを中心とした国家・企業による反労働組合政策への対応」「デジタル化の急激な進展による紙パルプ産業と労働者への影響と対策」等について意見があり、中でも国家・企業による反労働組合政策に関し、南米コロンビアからの出席者の「コロンビアではこの1年間で100名以上の労働者が殺害されており、各国労働者の連帯の力で救済していただきたい」との、本会議において救済決議の採択を求めた発言は、日本の労働関係とは大きく異なるものであり、強く印象に残りました。

2012年の新組織結成後、2回目となるインダストリアル・グローバルユニオン「紙パルプ産業世界会議」が、2017年11月29日〜30日、ハンガリー・ブダペストにおいて開催され、世界23カ国・30組合より1100名が出席、日本からはインダストリアル・JAF・松井副事務局長、紙パ連合・橋本中央副執行委員長(日本製紙労働組合)、王ユニオン紙パルプ部門共

また、安全に関しては、「世界の中で紙パルプ産業は最も危険な産業と言われている」「重篤災害以下の災害については、従業員が解雇を恐れて隠す傾向にあり、報告されているものは氷山の一角にすぎない」とあり、その理由として、他国では、経営者は「自社の設備に不安な箇所はない」と報告を行い、南米から出席者より「日本での新設備導入時のオペレーター教育方法」等についての質問がありました。各パネリストは「労働者においては「労働者の安全確保と不安な作業への拒否権の確立」「人権・自由・民主主義・公平な分配による公正な社会の実現」「南米・東南アジアを中心とした国家・企業による反労働組合政策への対応」「デジタル化の急激な進展による紙パルプ産業と労働者への影響と対策」等について意見があり、中でも国家・企業による反労働組合政策に関し、南米コロンビアからの出席者の「コロンビアではこの1年間で100名以上の労働者が殺害されており、各国労働者の連帯の力で救済していただきたい」との、本会議において救済決議の採択を求めた発言は、日本の労働関係とは大きく異なるものであり、強く印象に残りました。

また、安全に関しては、「世界の中で紙パルプ産業は最も危険な産業と言われている」「重篤災害以下の災害については、従業員が解雇を恐れて隠す傾向にあり、報告されているものは氷山の一角にすぎない」とあり、その理由として、他国では、経営者は「自社の設備に不安な箇所はない」と報告を行い、南米から出席者より「日本での新設備導入時のオペレーター教育方法」等についての質問がありました。各パネリストは「労働者においては「労働者の安全確保と不安な作業への拒否権の確立」「人権・自由・民主主義・公平な分配による公正な社会の実現」「南米・東南アジアを中心とした国家・企業による反労働組合政策への対応」「デジタル化の急激な進展による紙パルプ産業と労働者への影響と対策」等について意見があり、中でも国家・企業による反労働組合政策に関し、南米コロンビアからの出席者の「コロンビアではこの1年間で100名以上の労働者が殺害されており、各国労働者の連帯の力で救済していただきたい」との、本会議において救済決議の採択を求めた発言は、日本の労働関係とは大きく異なるものであり、強く印象に残りました。

また、安全に関しては、「世界の中で紙パルプ産業は最も危険な産業と言われている」「重篤災害以下の災害については、従業員が解雇を恐れて隠す傾向にあり、報告されているものは氷山の一角にすぎない」とあり、その理由として、他国では、経営者は「自社の設備に不安な箇所はない」と報告を行い、南米から出席者より「日本での新設備導入時のオペレーター教育方法」等についての質問がありました。各パネリストは「労働者においては「労働者の安全確保と不安な作業への拒否権の確立」「人権・自由・民主主義・公平な分配による公正な社会の実現」「南米・東南アジアを中心とした国家・企業による反労働組合政策への対応」「デジタル化の急激な進展による紙パルプ産業と労働者への影響と対策」等について意見があり、中でも国家・企業による反労働組合政策に関し、南米コロンビアからの出席者の「コロンビアではこの1年間で100名以上の労働者が殺害されており、各国労働者の連帯の力で救済していただきたい」との、本会議において救済決議の採択を求めた発言は、日本の労働関係とは大きく異なるものであり、強く印象に残りました。

また、安全に関しては、「世界の中で紙パルプ産業は最も危険な産業と言われている」「重篤災害以下の災害については、従業員が解雇を恐れて隠す傾向にあり、報告されているものは氷山の一角にすぎない」とあり、その理由として、他国では、経営者は「自社の設備に不安な箇所はない」と報告を行い、南米から出席者より「日本での新設備導入時のオペレーター教育方法」等についての質問がありました。各パネリストは「労働者においては「労働者の安全確保と不安な作業への拒否権の確立」「人権・自由・民主主義・公平な分配による公正な社会の実現」「南米・東南アジアを中心とした国家・企業による反労働組合政策への対応」「デジタル化の急激な進展による紙パルプ産業と労働者への影響と対策」等について意見があり、中でも国家・企業による反労働組合政策に関し、南米コロンビアからの出席者の「コロンビアではこの1年間で100名以上の労働者が殺害されており、各国労働者の連帯の力で救済していただきたい」との、本会議において救済決議の採択を求めた発言は、日本の労働関係とは大きく異なるものであり、強く印象に残りました。

世界各国から1100名が参加

パネルディスカッション

アクションプラン

対抗

雇用創出

雇用創出

雇用創出

参加者からの声

世界会議に参加して

労使関係のあり方



王子製紙新労組 中央執行委員長

山本 芳弘

インダストリアル・グローバルユニオンにおける日本の労働運動という観点から「産業別労働組合」と日本特有の「企業別労働組合」の違いは、企業との関わり方、交渉

の仕方・戦略において大きな相違があります。資本主義の労使関係の本質上、私たちが当たり前と感じていたものが、世界の中で見れば日本は特殊な形態にあるなど、ディスカッションする中で改めて感じました。その背景には、人事・雇用

あつた歴史から反労組政策、民主主義に対する攻撃など、政治、政権により労働運動に大きな影響を及ぼしています。

災害が発生しなくても、危険と思えば作業を中止し、運転できない施策が必要だと訴えていました。それぞれのおかれている環境の中で、手法は違いますが労働組合が目指すべき方向性には変わりありません。

安全衛生のディスカッションでは、マニュアル作業や化学物質の対応など設備も教育も進んでいない状況下、グローバルユニオンでは法的な措置いわゆる「作業を拒否する権利」の法制化を進めています。

日本では企業に対する帰属意識が強いため、企業力強化、安全活動など労使協力が根幹にありますが、グローバル化が進み、国際社会が求める企業経営、労使関係のあり方に何時の日か強い影響を受けることになるかも知れません。

今回、世界におけるパルプ・紙部門に関わる課題が多くあげられました。共通する対応も多く、魅力ある産業の実現に向け、我々の役割は重要であると感じました。



ハンガリーVDS本部前での集合写真 左から4人目は松井副事務局長

安全な産業を目指して



特種東海製紙労組 中央執行委員長

福本 強

今回は産別・組織のご理解により今会議体に参加することができました。とにかく各国の代表者

に世界の製紙業界は労災が多い職種とされ、世界の労組が連携・連体し安全な産業を目指す事を確認しました。

とに比べて、海外では、労働者が産別労組に直接加入する形が一般的なようでした。

日本でも労働争議はありますが、海外の参加各国の方の報告では、政治が不安定なことで、労働者の社会保障が整っていないことや労働組合の活動が弾圧されている事例がたくさんあることを知り

ました。国によって、労働組合の役員が命を落とす(暗殺される)という話もありました。会議を通じて、自身の単組のことも紙パ連合の活動をあらためて見つめることができました。また、私たちがグローバルという括りの中でどのようなことができるのか、やっつけていくべきなのかということ課題として、意識して考えていきたいと思っています。

また、諸外国では産業別労組が一般的であり企業との交渉などをはじめとして、一定の労働条件を設定する役割を担っているようにしたが、諸外国の労使関係は対立的であるという印象を受けました。日本でも過去には労使で激しい対立があり、その経験を踏まえて話し合いを大切にしたい関係構築にきた歴史がありますが、労使協力は日本の特徴的な文化であることを実感しました。



中央副執行委員長

杉田 幸基

今回、初めて世界会議に出席させていただきました。

まず、はじめに、労働組合の加入に関して、日本と海外では違うのだな

あということを感じました。諸外国の方から見ると日本の企業内組合という形や労使関係はむしろ珍しく捉えているよう

で、海外では、労働者個人が産別労組に直接加入する形が一般的なよう

です。日本でも労働争議はありますが、海外の参加

国の方の報告では、政治が不安定なことで、労働者の社会保障が整っていないことや労働組合の活動が弾圧されている事例

がたくさんあることを知り

ました。国によって、労働組合の役員が命を落

疑応答の場では、南米の方より労働組合が迫害を受けていることや役員が殺害されている自国の厳しい状況などについての訴えがあり、同じ労働組合でも国が違えば活動環境も大きく違うことを痛感しました。

労使協力は日本の特徴的な文化



三菱製紙労組 書記長

山上 悟司

今回、初めて世界会議に出席しました。会議では紙パルプ産業に係る諸課題を整理するためにパネリストからは様々な問題・課題につ

きとができたことなど、貴重な経験になりました。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

今回、見聞を広めることのできたことなど、貴重な経験になりました。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

今回、見聞を広めることのできたことなど、貴重な経験になりました。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

今回、見聞を広めることのできたことなど、貴重な経験になりました。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

あなたとわかちあう 次の一歩 R ろうきん

重篤災害は絶対に発生させない

2018年無災害を達成しよう

2017年12月15日から2018年1月15日にかけて、中央労働災害防止協会が主催する「年末年始無災害運動」が展開され、各事業場・職場においては、「作業前点検の実施」や「作業手順や交通ルールの遵守」、「非定

常作業における安全確認の徹底」などに取り組まれたと思います。昨年、紙パ連合に報告のあった災害件数(12月26日現在)は、死亡災害が1件、休業災害が48件、不休災害が51件となっていま

＜災害報告書提出のお願い＞

紙パ連合では、災害撲滅に向けた取り組みの一環として、類似災害防止を目的に「セーフティーネットワークニュース」を発行しています。災害が発生した場合は、速やかに紙パ連合へ報告をお願いします。また、昨年発生した労働災害で未報告となっているものが無いか点検を行い、提出願います。



「職業上の健康と安全」について報告を行った福本中央執行委員長 (写真左)